

# 王様手帖アンケート運動特集

## ファンの7割は 自ら依存だと思っている

パチンコ依存問題は遊技業界として看過できない問題だ。国民に対しストレス発散の場を提供する立場は依存問題と背中合わせであり、この問題に対処せず健全な姿を失っていては将来の利益を損ねる。このことを業界関係者は真剣に捉える必要性があり、本企画では改めて遊技業界がどうパチンコ依存問題と向き合うべきかを探ってみた。

# 改めて問う パチンコ依存とは?

姉妹誌王様手帖アンケート

- Q-1ズバリ、あなたはパチンコ依存だと思いますか?  
 イ、まさにパチンコ依存だと思った  
 そう思うことがある  
 Q-2Q-1でイ、又は口と答えた方  
 パチンコ依存だと思う理由は何ですか?  
 イ、パチスロの頻度が多い  
 お金を使ってしまった  
 の約束よりパチンコを優先した  
 ないのに情けで打つてしまった  
 パチスロ以外にやることが思いつかない  
 ハ、仕事や家庭、人と話題がパチンコ・パチスロしかない  
 Q-3あなたの家族、友人にパチンコ依存だと思われる人はいますか?  
 イ、確実にいる  
 オ、それらしい人はいる  
 全く見当たらない  
 Q-4「パチンコ好き」と「パチンコ依存」の違いはどこにあると思いますか?(複数回答可)  
 イ、単純に遊技時間や使用金額が多い  
 生活など本人の限界を超えてパチつてしま  
 ハ、「いつか負けを取り返せる」と考えて  
 いる  
 ニ、周囲のアドバイスに耳を貸さない  
 ホ、パチンコ・パチスロを打たないことに対し恐怖感がある  
 Q-5パチンコ依存の「一番の」要因はどこにあると思いますか?  
 イ、本人の意思  
 の一病氣  
 ホ、その他  
 Q-6パチンコ依存克服のために「最も」必要なと思うことは?  
 イ、本人の意思  
 ロ、周囲のサポート  
 門襟による対応  
 射幸性低下  
 ホ、パチンコ依存に対する情報公開、啓蒙活動  
 Q-7リカバリーサポート・ネットワークなどパ  
 チンコ依存克服をサポートする組織が存在する  
 のを知っていますか?  
 イ、相談したことがある  
 ハ、存在は知りてい  
 ハ、知らない

回答者の男女別・年代別割合(単位%)			
年代	男	女	計
20	3.7	2.1	5.8
30	15.0	4.6	19.6
40	20.0	6.7	26.7
50	17.1	7.1	24.2
60	15.8	7.9	23.7
計	71.6	28.4	100.0

アンケートの有効回答数は1440通

# そもそもパチンコ依存とは何か

「パチンコ依存」——よく聞く言葉であるが、その実態について深く議論される機会は少ないのでないだろうか。それ以前に業界内で取り扱われるキーワードとして、パチンコ依存という言葉に対する関心はまだ低いであろう事も予想に容易い。

これはパチンコ依存がどのような状態を指すのかが明白でないこと、そしてパチンコ依存がパチンコ業界に対しどのような影響を与えるのか分からぬことも大きな理由であろう。だが、射幸心をそぞる恐れのある営業を託されている以上、こうした問題に積極的に取り組むことは遊技業界の責務として必要不可欠なことはなかろうか。業者で依存の意味を調べると「他に頼つて生活、存在すること」とある。依存症に対する記述も様々なものがあるが、ポイントとなるのは「ある過激な行為で依存の意味を調べてみると『他に頼つて生活、存在すること』とある」だ。

依存症に対する記述も様々なものがあるが、ポイントとなるのは「ある過激な行為で依存の意味を調べてみると『他に頼つて生活、存在すること』とある」だ。

世界保険機関（WHO）ではこうした要素も、依存問題と深い関わりがあると想像できよう。

一方、依存問題に対する認識が低いのはパチンコファンについても

同様であろう。漠然と「パチンコ依存は病気」という情報は耳に入っているかも知れないが、やはり「本人の意思の問題」と捉える傾向が強いことが、

今回のアンケート結果からも窺われた。日常生活では得られない刺激を与え人々をリフレッシュさせることが喫煙の責務である。が、嗜好と疾患、両者が依存するほど打ち込めば話が早いのであるが、今日日そこまでパチンコに愛着を持つている関係者も少ないのではないか。

ならばファンの声に耳を傾けてみるのも一興であろう。パチンコ依存、それはファンの目にはどのように映つているのだろうか。

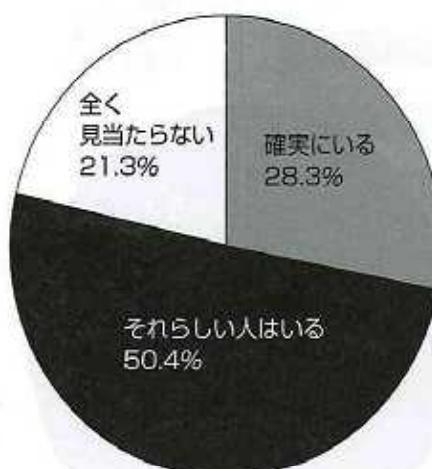
問1、問3では本人、または周囲の人たちがパチンコ依存に陥っていると感じことがあるか否か尋ねてみた。自身については「まったく思わない」との回答が3割弱にとどまり、7割以上のファンはなにかしらの形で「自分はパチンコ依存では？」と感じたことがあるようだ。

また、まわりにパチンコ依存だと思われる人がいるかという問い合わせは約8割がいると回答。自身に対する回答に比べまわりに存在するとの回答が若干多いのは、「自分は大丈夫」といふ気持ちの表れかもしれない。

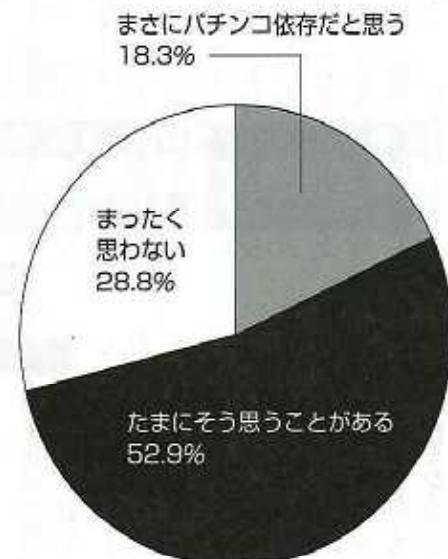
いずれにせよ、実際に依存問題を抱えている人がファンの半数以上を占めている業界であれば、もつと大きな社会問題として取り上げられているかもしれない。結局のところどのようないい問題は遊技にのめり込むことによって、本来遂行すべき社会的な責務を放棄してしまうことだ。だが一方で、庶民的な感覚ではパチンコにのめり込む行為そのものを悪と捉える風潮も否定できない。両者を混同することがパチンコ依存の存在をぼやかしてしまう。

もちろん、自戒、自嘲の意味を込めることはよくあることだ。だが、パチンコ依存ではないにも関わらず、「自分はパチンコ依存かも」と本気で悩んでいる人もいるかもしれない。結局のところどのようないい問題は遊技にのめり込むことによって、本来遂行すべき社会的な責務を放棄してしまうことだ。だが一方で、庶民的な感覚ではパチンコにのめり込む行為そのものを悪と捉える風潮も否定できない。両者を混同することがパチンコ依存の存在をぼやかしてしまう。

Q3 あなたの家族、友人にパチンコ依存だと思われる人はいますか？



Q1 ズバリ、あなたはパチンコ依存だと思いますか？



# 多くのファンは依存を意思の問題だと捉えている

今回のファンアンケートではパチンコ依存の一番の原因はどこにあるのか、また依存を克服するために必要なことは何かについても尋ねてみた。

これは設問作成時に予想していた通りでもあるのだが、依存の原因として最も多く上げられた回答は「本人の意思」であった。また、「意思に関わらない一種の『病気』」という回答もう力強く、「依存は意思の問題ではなく、病気である」と理解しているファンが多い。一方で、パチンコ業界や社会情勢にその要因を求める意見は意外にも少なかつた。

ところが、パチンコ依存克服のために必要なこととなると、「本人の意思」との意見が増加する。特に男女間の回答を比べると、女性で「本人の意思」との回答比率が高く、逆に「専門機関による対応」が低い。これは見方を変えるなら、女性においてはパチンコ依存を、意思で治る問題として片付けた

い願望があると捉えることができるのではないか。

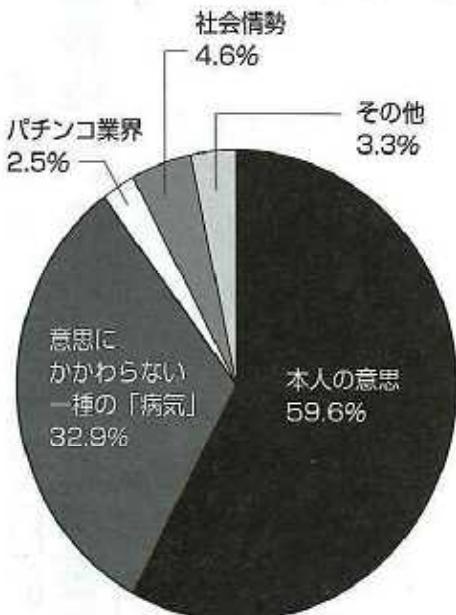
つまり、真の意味でのパチンコ依存という状態に対してはファン自身も不安感を覚えている。それだけに本人の意思で解決する、強度のパチンコファンにとどまっていることを、ファン自身が確認したい思つているのではないか。なお、「パチンコ・パチスロの射幸性抑制」と答えた人も概ね8%いた。依

## パチンコは、適度に楽しむ遊びです。

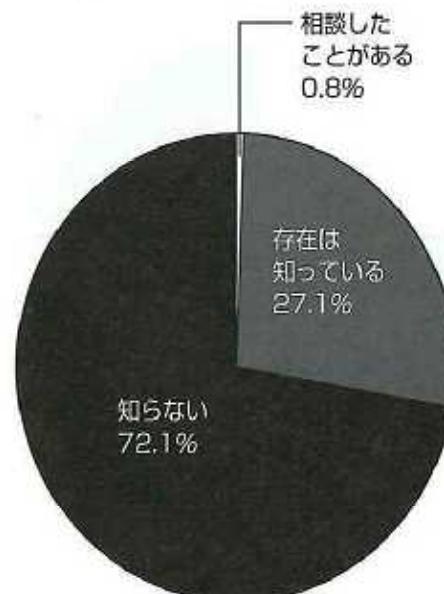


全日遊速ではリカバリーサポート・ネットワークのポスターを店内トイレに掲示するよう組合員に求めている。人目に付きやすい所では相談したい人も周りの目が気になるだろうという配慮からだ。

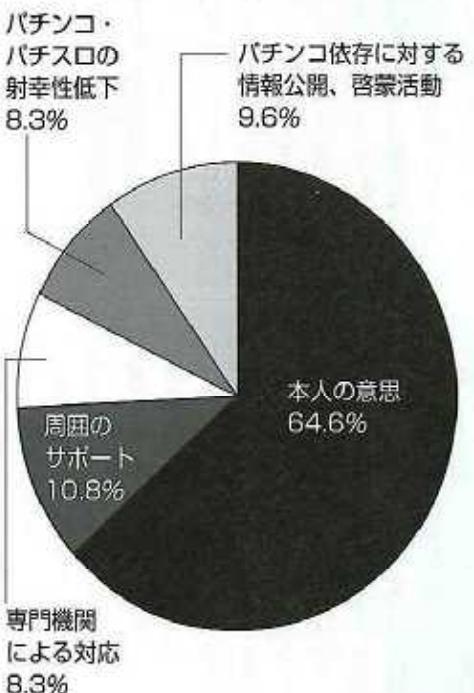
Q5 パチンコ依存の「一番の」要因はどこにあると思いますか？



Q7 リカバリーサポート・ネットワークなどパチンコ依存克服をサポートする組織が存在するのを知っていますか？



Q6 パチンコ依存克服のために「最も」必要だと思うことは？



存の要因としては「病気」と答える人が約3割存在したもの、その対応としては専門機関によるものや周囲のサポートより、むしろ本人の意思や遊技機の射幸性が重視されている今回のアンケート結果。確かに一線を越えない範囲で、周囲から見れば不摂生な遊技を行ってしまうレベルに関しては本人の甘えが作用している部分もあるが、その先には決して意思の問題だけでは片づけられない、病的な要因が存在していることをファンにも認知してもらわうことが必要だ。

例えば乳幼児の車中放置にしても常人が考えれば当然行き着く判断がなぜできないのか。これを「普通の人は判断できるのに、まともな判断ができるないダメな人」で終わらせてしまっては依存問題に対する理解は深まらない。なぜ当事者は正しい判断ができるなかつたのか、パチンコ・パチスロに間違った判断を誘発する要因が存在するのか否かをしつかり探っていくことが、こうした不幸な事故をなくす手がかりになるのではないかろうか。

## 誤解多いマニアとの混同 社会的責務の放棄が焦点

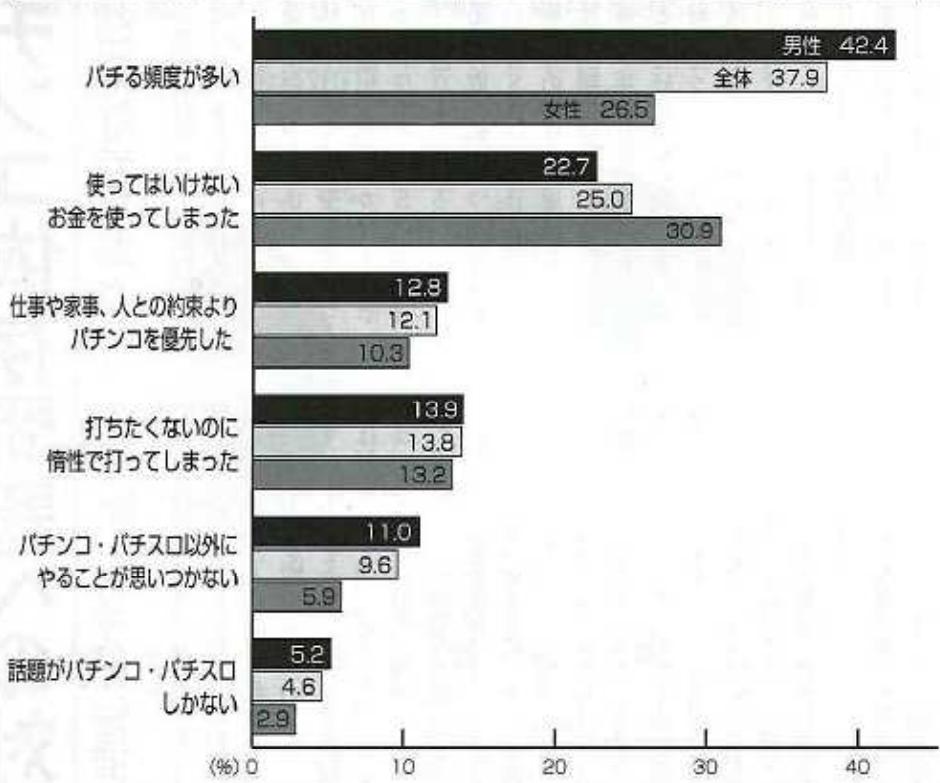
設問は前後するが、ここではファンがパチンコ依存だと感じる基準をどこに置いているのかに焦点を当ててみたい。

まず、自身がパチンコ依存だと思う理由については、「パチンコ依存頻度が多い」が最も多く、使つてはいけないお金を使つてしまつた」がこれに続く。ただし、男性と女性では両者の順番が逆転してしまうのが大きな特長だ。男性においては「打ちたくないのに惰性で打つてしまつた」や「パチンコ・パチス

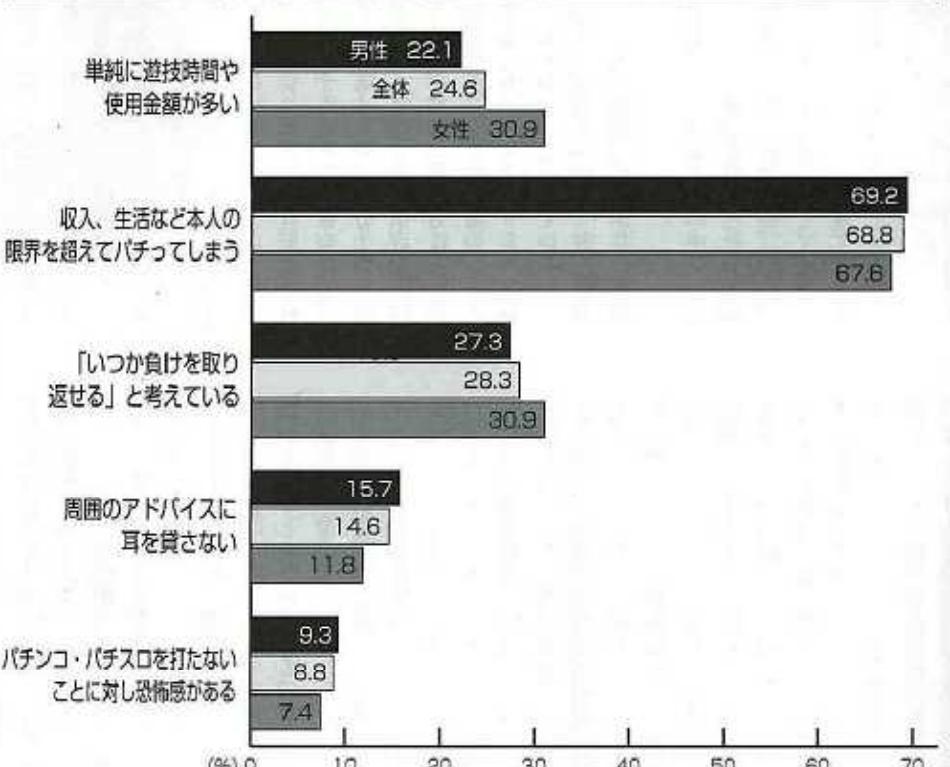
ロ以外にやることが思いつかないとつた回答が多く、「自分はパチンコ・パチスロしかやることがないのだな」という自嘲にも似た思いが、パチンコ依存を連想させているのではないかと予想が付く。

一方女性では「使つてはいけないお金を使つてしまつた」という答えが目立つ。使つてはいけないお金の定義は自身か否かなどの要素で変わってくるだろうが、恐らく主婦という家計を預かる立場の人が、このような思いを感じているのか、もしくは単純に女性の方が金銭感覚に対してもシビアであるということなのかもしれない。

Q2 Q1でイ、又は口と答えた方、パチンコ依存だと思う理由は何ですか？（複数回答可）



Q4 「パチンコ好き」と「パチンコ依存」の違いはどこにあると思いますか？（複数回答可）



ところ、「パチンコ好き」と「パチンコ依存」の違いは、「収入、生活など本人の限界を超えてパチってしまう」との回答が「割近くを占め、単純に遊技時間や使用金額が多い」は25%程度、先程とは打つて変わり、「収入、生活など本人の限界を超えてパチつてしまふ」との回答傾向を見る。この回答が「割近くを占め、単純に遊技時間や使用金額が多い」は25%程度、という点についてはしっかりと捉えていいると思われる。

恐らく多くのファンは自身の状況について、「依存とまではいかないが、の限り、ファンも依存の何が問題なのかといふ点についてはしっかりと捉えていられる」と思われる。

つまり一般的に「ピーマニア」と呼ばれている人たちだろう。こうしたファンの人たちが業界を支えていることに疑いはないのだが、だからこそ彼らが一線を越えないまま、しつかり啓蒙活動を行っていくことが、ひいては業界の利益に繋がるはずだ。

また、「いつか負けを取り返せると考えている」という回答も多かつた。ファンの意識では使用したお金が必要も失ったお金とイコールでない点も、パチンコ特有の問題といえるだろう。

# 平成15年よりいち早く対策に乗り出す

## 業界の取り組み／全日本遊技事業協同組合連合会

ここで依存問題に対する業界の取り組みについて振り返っておきたい。

業界団体の中でも特に積極的な動きを見せてているのは全日遊連だ。平成15年4月に依存症研究会（現ばっちゃん依存問題研究会）を立ち上げ、翌年8月には組合員及び来店ファンへのアンケート結果をまとめた報告書を上梓。バ

チンコ依存」という暖昧で誤解を招きやすい対象について、啓発の先鞭を付けた点についてはおおいに評価されるべきだ。

同研究会の活動は平成18年4月、「西村直之氏を代表に迎えた相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」の

設立へと実を結んでいる。同機関設立後は組合員へのポスター配布、店内（トイレ）への掲示を指導するなど地道な啓発活動に注力しており、また、本年10月に同機関がNPO法人の認証を受けたこともあり、他団体にも支援を要請して行く考えだ。

特に強調しておきたいのが、このように業界の抱える問題点について、自ら取り組む姿勢を明確にしている団体は、社会的に見ても極めて希有であるという点だ。なぜ、ここまで取り組む必要があるのか。

風潮法を持ち出すまでもなく、ぱちんこ営業は著しく射幸心をそそる恐れという前提の上でだが、各ケースにおける個々である。であれば業界が取り組むべきは、パチンコ依存に対し関心を持ち、認識を深める以外にない。同様にファンに対しても、パチンコ依存を望まない限り解決の方向には向かわ

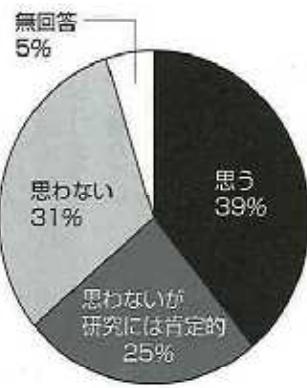
のある営業だ。ファンが依存に陥る危険を内包しているように、パートナーもまた、行き過ぎた営業とは背中合わせの存在である。

だが、全体を統べる明確な判断基準は無く、結局行き過ぎか否かを判断するのは（もちろん法の許容する範囲内という前提の上で）各ケースにおける個々である。であれば業界が取り組むべきは、パチンコ依存に対し関心を持ち、認識を深める以外にない。同様にファンに対しても、パチンコ依存を望まない限り解決の方向には向かわ

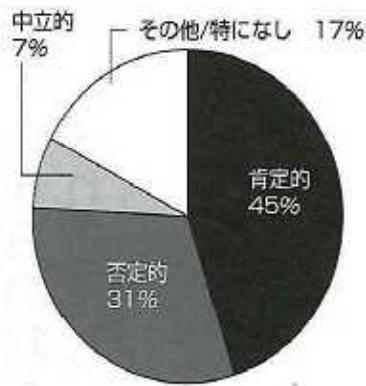
ない。左は平成16年発表のアンケート結果の一部だが、依存問題に取り組むことに対して後ろ向きな業界関係者も当時は決して少なくない。無論全日遊連によるアンケートから5年が経過し現在では意識の変化もあるだろうが、パチンコ依存という言葉に過剰反応してしまう業界関係者も多いのだろう。

しかしパチンコ依存とは、決して時間や金額の絶対値で規定されるものではない。同じ時間、金額でもある人にとっては健全で、別の人にとっては依存といえる状態になることもあるだろう。そして依存者は本来、パチンコで遊ばせるべきではない人である。であれば、依存問題に取り組むことは健全な市場の形成、つまり業界の利益に繋がることであると認識すべきだ。

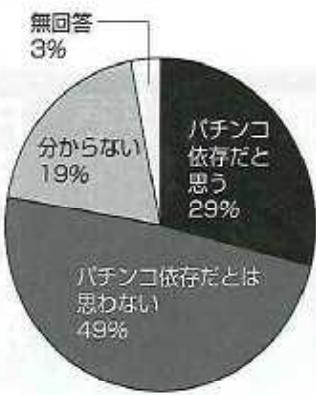
過度にのめり込む客に対する対策を、業界が積極的に取り組むべきだと思いますか？



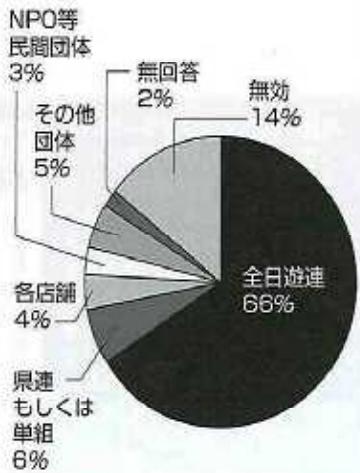
過度にのめり込む客に対する対策に取り組むべきだと思いますか？で「思わない」とした人の依存問題研究会に対する自由意見での回答



あなたは、自分がパチンコ依存だと思ったことはありますか？



過度にのめり込む客に対する対策活動は、どこで行われるのがいいと思いますか？



最近では行政からの操縦でもリカバリーサポート・ネットワークに触れられるなど、こうした取り組みに対する評価は高まっている。こうした機運を逃してはならず、業界の財産として育成していくべきだろう。

# パチンコ依存問題への対応の意義

## 有益な社会資源としての役割とリスク管理の重要性

パチンコ依存問題に対する業界内の動きとしては、2003年4月に全日本遊連内に「依存症研究会（現ぱちんこ依存問題研究会）」が設置され、2006年4月に全日遊連の支援のもとぱちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク（RSN・西村直之代表）が設立されている。

全日遊連の取り組みについては次項に譲るが、RSNは主に日本社会貢献団体機構からの助成金で運営され、パチンコ依存問題の研究や無料電話相談、医療・保健・福祉分野の援助職者などを対象とした研修講座の開催など、多くの活動を行っている。活動の核となる無料電話相談は、パチンコ依存問題を抱える本人及び家族や友人等からの相談を受けることで早期介入を目的としており、また研修講座等を通じてパチンコ依存問題の相談員や回復に向かったプログラムをコーディネートできる

RSN設立記者会見の様子。一般誌でも報道され注目を集めた。

人材の育成も進めている。設立から3年以上が経つRSNだが、今年10月16日にはNPO法人の認証を取得し、新たなスタートを切った。

では、本題となるパチンコ依存問題とは何か。ひと言で表すならば、「パチンコ・パチスロに過度にめり込むこと」である。この問題では就労問題や金銭問題などを引き起すが、そもそもパチンコ・パチスロにめり込む原因とはどこにあるのだろうか。

まず依存行とは、ストレスからの回避行為である。そのストレスは人によつて様々だが、対人関係や生活環境などに起因するものだ。この対人関係など個人が抱えているストレスに対処できず、そこから逃げるために何かにめり込み、社会生活に支障をきたすのが依存問題だ。

パチンコ依存問題も個人が抱えるストレスに起因している。この抱えるストレスから逃避する手段をパチンコ・パチスロに求め、ストレスからの一時的な開放感を得るために遊技をするが、パチンコ・パチスロを遊技することで個人の問題が解決されることはなく、解消すべき問題（対人関係など）が放置されることで遊技を繰り返す。その結果、ストレスを回避するための手段が目的となってしまい、パチンコ・パチスロを遊技するという目的のために仕事を休む、借金を重ねるなど状況が悪化することで社会から孤立していく、精神のバランスを崩すことできらにパチンコ・パチスロにめり込むという

難な病的依存と呼ばれる状況に陥り、周囲の支援が必要となるが、残念ながら世界的にもギャンブル依存に対する研究は進んでいないため、世間から理解されにくいのが現状だ。

一方、パーラーとは国民に対して娛樂を提供することで、日頃のストレスを発散させる場所としての役割があるが、逆の見方をすればパーラーを訪れる人の多くがストレスを抱えているといえる。パーラーはストレスを抱える人たちの受け皿であるわけだが、依存問題は個人が抱えるストレスに起因することを考慮すると、遊技業界は依存問題というリスクをストレスを抱える人に提供するビジネスといえる。

その中で遊技業界に求められるのは、娯楽という国民に有益なビジネスである反面、ストレス解消という要素を持つビジネスモデルのため、依存問題のリスクを抱える人を呼び込む土壤があるとの認識で、そのため依存問題に陥りやすい人が業界に関わることを防ぐ入口戦略やリスクを与えない、または緩和するためのセーフティネット構築などの対応が必要となっている。

もうひとつ認識すべきは、遊技業界がパチンコ依存問題に正面から取り組んでいる点だ。

依存問題ではパチンコ・パチスロに限らずアルコールや薬物など社会問題化する対象は複数存在するが、例えばアルコール依存の問題に対して酒造メーカーなどアルコールに関連する企業や業界団体は消極的な対応しかしていない。

RSNは主催する研修講座を通じてパチンコ依存問題への研究も進めている。

